

ティーチング・ポートフォリオ



大学名 東京都市大学
所属 共通教育部 人文・社会科学系
名前 山田 盛朗
作成日 2021年8月3日

1. 責務

共通教育部人文・社会科学系体育部門に所属し、教育・研究活動を行っている。実技科目として選択必修科目の基礎体育、選択科目の応用体育（通常）、応用体育（集中：ゴルフ、スキー・スノーボード）を担当している。ほかに、講義科目として、スポーツ・健康論、教養ゼミとして、ニュースポーツゼミナールを担当している。

授業以外では、ハンドボール部顧問、教務委員、FD推進センターを担当している。

2. 理念

1.スポーツを行うときに、受動的ではなく、自分（達）の意図を持ってプレーできるようになる。〈方針1〉

高校生までの体育授業や部活動では、指導者に言われたことを行う伝達—受容型の指導が一般的である。しかし、実際にプレーをするのは本人であり、なぜこの練習をするのか、どうやったらシュートを決めることが出来るかを自分自身で考え、挑戦することでただ言われたことを行うだけよりも面白さが広がる。また、ここに楽しみを見いだせることが生涯にわたってスポーツを楽しむことの素養となると考えている。

2.スポーツを通して得られる人生に役立つ能力（コミュニケーション力、課題解決力、リーダーシップ等）を提供する。〈方針2〉

スポーツを行って得られるものは、そのスポーツの技術だけではない。チームでスポーツを行う際には、必ずコミュニケーションをとる必要があり、技術を身に着ける過程では、自己の課題と向き合う必要がある。また、集団での活動を円滑に進めていくためには、リーダーシップ、フォロアシップが必要である。これらの能力は広く一般社会を生き抜く力としても重要であるため、スポーツを通して、このような力を身に付けてもらいたい。

3.スポーツの色々な楽しみ方を伝え、ひとりひとりがスポーツを楽しむ環境を作る。〈方針3、4、5〉

スポーツの楽しみは、気分転換、勝つこと、友達とワイワイすること、相手との駆け引きなど多様であり、それぞれの人によって受け取り方は違うと考えられる。また、スポーツをすることだけではなく、スポーツを見ることやボランティアやマネージャーとして支えることもスポーツの楽しみ方である。このような多様なスポーツの楽しみ方から、自分にとってのスポーツの楽しみ方を見つけてほしい。

3. 方法

上記の理念を実現するための方針として、「判断力、状況把握能力、自分の役割等を考える力の育成」「授業中の運動以外の活動」「スポーツが嫌い／不得意な学生への配慮」「スポーツをする時間の増加」「する以外のスポーツの楽しさを身に付けること」を重視して授業を行っている。

〈方針1〉「判断力、状況把握能力、自分の役割等を考える力の育成」

- ・自分（達）の判断ではミスになってしまうことが多くあるが、それに対しチャレンジを称賛するような、ミスを許容する雰囲気を作る。
- ・プレーの後になぜそのようなプレーをしたか、プレーの言語化を求める機会を作る。
- ・学生が考えるときには、時間がかかり遠回りも多いため、学生がコミュニケーションをとっている間はこちらから口を出さないようにする。
- ・授業内では、試合→チームでの話し合いと練習→試合というように、自分たちで考えて活動する時間を作る。

〈方針2〉実技の授業中の運動していない時間を大切に作る。

- ・学生が活動を考える時間（グループワーク）には、役割（キャプテン、記録など）を決め、役割を全員が行えるようにローテーションする。
- ・円滑な集団行動に必要な授業の基本的なルールを守る（服装、時間、道具の扱い方）。
- ・自分のやりたいこと（スポーツ）だけをうまくできることではなく、それに必要な準備、片付けなどの運営を協力できることを評価する。

〈方針3〉「スポーツが嫌い／不得意な学生への配慮」

既にスポーツが嫌いな学生に、スポーツの楽しさを説いてもなかなか受け入れてもらえない可能性が高い。少しでもできること、出来なくても問題ないことを伝えていく必要がある。

- ・スポーツは感覚が大事になる場面が多々あるため、ひとつの感覚に対して複数の伝え方で指導するようにする。
- ・運動が得意ではない学生に積極的にコミュニケーションをとる。

〈方針4〉「スポーツをする時間の増加」

- ・授業内で、少しでも多くの運動の成功体験をしてもらうため、説明や準備、マネジメントにかかる時間を効率化し、運動時間をなるべく多くとる。スポーツをすること、スポーツをすることを通して得られる楽しみ（相手に勝つこと、友達と仲良くなること、相手と駆け引きすること、戦略を考えること、人に教えること等）を体験してもらう。

〈方針5〉「する以外のスポーツの楽しさを身に付けること」

- ・スポーツを見て楽しむことが出来るように、その種目の正規のルールを説明し、理解してもらう。
- ・講義科目では、スポーツから見た色々な分野（栄養、健康、政治、心理、、、）を紹介する。

4. 成果

授業評価アンケートで、コロナ禍で運動の機会ができたことが学生から高評価を得た。スノーボードの授業では、授業を通してスノーボードへの興味を深め、全日本スキー連盟のバッジテストを受験する受講生も多い。ハンドボール部の活動では、所属リーグでの優勝や得点王の獲得といった実績が得られて

いる。それだけでなく、活動を通して成長し、次のステージでもハンドボールを続ける学生がいることもハンドボールが好きになる指導の結果である。

5. 目標

短期目標

今回の TP 作成で授業中のエビデンスが不足していると考えたため、以下の目標を設定した。

- ・授業の映像を撮り、授業時間の分析を行う。(2021-2022 年度)
- ・自己の課題の省察の材料として、自分が動いている映像を見られる機会を作る。(2021-2022 年度)

長期目標

- ・学生が自分なりのスポーツの楽しみ方が見つけられる授業を作る。

【添付資料】

- ・授業評価アンケート
- ・シラバス